

## 炉物理部会ニュース (No.10)

1999年5月 17日 発行

### 目次

- 1 「第11回 炉物理部会」会員総会報告
- 2 「第3回炉物理部会 懇親会」報告
- 3 「第31回炉物理夏期セミナー」の案内

## 1 「第11回 炉物理部会」会員総会報告

第11回「炉物理部会」会員総会が、広島大学総合科学部で開催された「原子力学会1999年<春の年会>」の第2日目(99/3/23)に行われた。当日の主な議事、報告を以下にまとめる。

### 1-1 平成11年度運営委員について

成田委員長より運営委員会(案)が提案され原案通り以下のように可決された。

#### 平成11年度 炉物理部会運営委員

部会長	(1年)	アイテル 青木 克忠
副部会長	(1年)	武蔵工大 相沢 乙彦
庶務幹事	(1年)	東芝 三橋 偉司
財務小委員会	(1年)	日立 三田 敏男(留任)
〃	(2年)	名大 山根 義宏
編集小委員会	(1年)	近畿大 橋本 憲吾(留任)
〃	(2年)	原研 中島 健
セミナー小委員会	(1年)	東海大 阪元 重康
〃	(1年)	東海大 長瀬 慎一郎
〃	(1年)	東海大 朝岡 卓見
学術研究交流小委員会	(1年)	原研 大杉 俊隆(留任)
〃	(2年)	東北大 岩崎 智彦(ホムペ-ジ担当兼務)
学生・若手小委員会	(1年)	原燃工 伊藤 卓也(留任)
〃	(2年)	原研 大井川 宏之

### 1-2 夏期セミナーについて

阪元委員より資料（「第31回炉物理夏期セミナー」の案内 参照）に基づき今年度の計画について説明・提案された。東北大・阪大が大学院入試と重なることが指摘されたが、やむなしとして提案どおり可決された。（後に阪大は重ならないことが判った）

### 1-3 部会会計報告

三田委員より資料に基づき説明承認された。

川島委員より夏期セミナーの最終会計報告がOHPを用いてなされた。

### 1-4 学会委員よりの報告事項

Ⅰ 企画委員会報告（東芝・山本委員）

1) 学会倫理規定に関する議論

- ・ 原子力倫理教育の提唱・チャレンジあり。
- ・ 関連して、本年会に、米国での倫理教育に関する特別講演が企画されている。

2) 「原子力標準」調査専門委員会からの提言

- ・ 学会として、「規格化活動」を推進すべき 「規格・基準委員会」の新設

3) 「日本技術教育認定制度」

- ・ グローバリゼーションへの対応
- ・ 各国4年制大学における技術教育プログラムの同等性を相互承認する協定への加盟

4) 次回以降の計画他

- ・ 1999秋の大会：9/10-12に新潟工科大にて開催。論文募集は5/6-5/31、従来より1か月早いので注意のこと。
- ・ 2000春の年会：愛媛大で開催予定
- ・ 学会創立40周年記念式典：5/10 於東大山上会館

Ⅱ 編集委員会からの報告（東北大・岩崎委員）

1) 現在、編集委員会の改革を伴う学会誌の全面的な見直しを実施中である。

2) 国際学会のproceedingを学会の特別号として発行することになった。（今年度の遮蔽関係の国際学会が第1号。）

### 1-5 京大炉大学院実験について（京大炉・代谷氏）

1) 日本原子力学会1997年秋の大会時に開催された炉物理部会会員総会でお認めいただいた「京都大学臨界集合体実験装置(KUCA)の維持費復活に関する要望書」を平成9年度の部会長であった平川直弘教授(東北大学)に文部省までご同行いただき、要望を伝えるなどした結果、平成11年度より設置当初の約半額にあたる維持費が認められた。この維持費については、以前とは異なり、特に期限が定められていない。炉物理部会会員の方に心からお礼申し上げる。

2) 昨年度から3週間としたKUCA大学院実験は7月12日の週から3週間連続して行われることになった。これに関連して、炉物理夏期セミナー

一の日程をご調整いただくなど、部会員には若干のご迷惑をおかけすることになるが、ご理解をいただきたい。

### 1-6 秋の企画セッションについて

成田委員長より、学会企画委員の山本氏の意見もありできるだけオープンにテーマを決めたいが、秋については運営委員会で議論に基づき提案したいとの説明の後、大杉委員より以下の提案がなされた。

#### 軽水炉の高度化と炉物理の課題

内容：高燃焼化、プルトニウム利用、核・熱を含んだ炉物理の課題として設計コード・解析手法・炉物理実験等を含めても良い。

#### 加速器工藤炉と炉物理の課題

HTTR臨界試験について。臨界予測精度などについて

運営委員会では ～ を検討し、 を運営委員会提案とする。

検討の結果、テーマは 、特に、MOX利用に焦点を絞ることとし、パネラーは3～4人とすることになった。4月中旬までにパネラー決定し、下旬に予稿の原稿を依頼する。

また、竹田氏（阪大）より、将来は、以前にでていた炉物理・熱流動合同で安定性の問題も取り上げて欲しいとの要望があった。

### 1-7 その他

1 学会のhome page関係の報告

1) e-mail 名簿の見直しと会員へのe-mail発送を容易にするシステムの導入を実施中。 2) 掲示板システムは、作成運営済みだが、一部見にくい箇所があるので、現在改良中。 1 佐治氏（東電ソフト）より、ANS炉物理部会プログラム委員を本年6月から3年間担当することになったので、同委員会への要望、スペシャルセッションの提案等あれば連絡願いたい、との発言があった。

## 2 「第3回炉物理部会 懇親会」報告

秋の大会に引き続き、春の年会期間中の3月23日に、広島大学において炉物理部会懇親会を開催致しました。当日は多数御出席頂き有り難う御座いました。参加者数は部会員28名（学生0名）であり、終始賑やかな懇親会とすることができました。今後も引き続き懇親会を企画したいと考えておりますので、今回参加頂けなかった方々も次の機会には是非御参加下さい。

最後になりましたが、広島大学の菊地先生には会場の手配に際し連絡を取って頂く等御世話になりました。厚く御礼申し上げます。

1999年3月31日

炉物理部会長 成田正邦

懇親会実行委員

学術研究交流小委員 大杉俊隆

学生・若手小委員 北田孝典

- 1) 日時： 3月23日(火) 18:00-20:00
- 2) 場所： 広島大学 北福利会館 北1レストラン
- 3) 参加者： 28名
- 4) 会計報告：  
収入： 98,000円 (3,500円×28名)  
支出： 108,588円  
(広島大生協 104,472円(串焼き追加含む))  
(酒追加 4,116円)  
収支： -10,588円

これまでの収支：

- |         |          |     |          |
|---------|----------|-----|----------|
| 第1回     | +19,000円 |     |          |
| 第2回     | -11,129円 | (累計 | +7,871円) |
| 第3回(今回) | -10,588円 | (累計 | -2,717円) |

### 3 「第31回炉物理夏期セミナー」の案内

テーマ：1) 高速炉の将来を探る 2) 工学的安全について

日時：1999年8月30日(月)～9月1日(水)

場所：東海大学 山中湖セミナーハウス

住所 山梨県南都留郡山中湖村山中 323-1

交通 JR御殿場線 御殿場駅より富士急バス山中湖村役場前下車 15分

新宿より中央高速バスターミナルから富士急バス山中湖村役場前下車

東名高速 御殿場ICよりR-138

中央高速 河口湖ICよりR-138

第1日 参加登録 13:00～

開会式 13:45

トピックス 14:00～

・湯川・朝永とアインシュタイン 小沼通二氏(武蔵工大)

・チェルノブイリの現状 青木克忠氏(アイテル)

懇親会 19:00～

第2日 高速炉の将来を探る 9:00～12:00

講演 高速炉の課題と問題点 平岡 徹氏(電中研)

講演 Na冷却炉の物理 若林利男氏(サイクル機構)

講演 Na冷却炉の安全性 近藤 悟氏(サイクル機構)

昼食

高速炉の将来を探る 13:00～15:00

講演 Na冷却以外的高速炉 岡嶋成晃氏(原研)

講演 高速炉技術の確立に向けての展望 吉見宏孝氏(富士電機)

自由討論 15:00～17:00  
夕食 18:00～  
若手研究会 (19:00～)

### 第3日 工学的安全について

講演 . 工学的安全とその評価手法 松岡 猛 氏 (船舶技研)  
講演 . 原子力システムにおける安全 秋本正幸 氏 (原研)  
講演 . 軽水炉の安全 藤城俊夫 氏 (原研)  
(講師および演題の一部が変更される場合があります)

参加費(予定) : 部会員 6000円 学生部会員 3000円  
(テキストを含む) 正会員 8000円 学生会員 4000円  
非会員 10000円 学生非会員 5000円  
宿泊費(概算) : 全期間 2泊3日(6食、含む懇親会) 17000円  
8月30, 31 1泊2日(3食、含む懇親会) 10000円  
8月31, 9月1日 1泊2日(3食) 8000円  
部屋は、定員4名の洋室相部屋となります。  
遠方から参加する学生部会員には、旅費の一部を補助する予定。

### 問い合わせ先

〒259-1292 平塚市北金目1117  
東海大学 工学部 原子力工学科 阪元重康  
TEL 0463-58-1211 (EXT4140)  
FAX 0463-50-2017  
E-mail sakamoto@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

「炉物理部会」  
現278名  
第11回会員総会  
11.3.23 (於：広島大学)

## 平成10年度収支報告 (10. 4. 1 ~ 11. 3. 10)

(単位：円)

収入		備考
前年度繰越金	5,900,579	含古橋基金 1,882,597 . -
会費	107,000	-
前受金	20,500	平成11年度会費
第30回夏期セミナー残部売上	19,225	古橋基金へ繰入
第30回夏期セミナー残金	113,883	-
合計	6,161,187	含古橋基金 1,901,882. -

支 出		備 考
会議費	16,000	総会昼食代
通信費	134,453	会報、他発送費
「会報」印刷費	168,630	第47号280部
「ニュースレター」印刷費	35,427	Vol. 8,9 310部
雑印刷費	9,773	セミナー案内、コピー代
会員事務管理費	60,000	パソコン料 (@5,000 × 12ヶ月)
合 計	434,283	

残高 5,726,904円 含古橋基金 1,901,822 . -